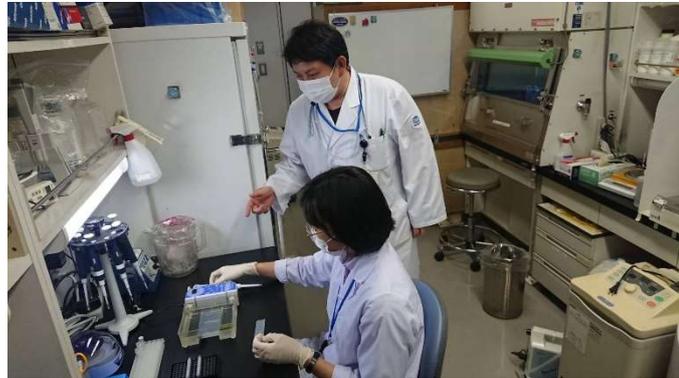


2年越しで日越往来が本格化、オフラインでの研修活動も再開！

(2022年6月4日)

2020年からはJICAプロジェクトに限らず、世界が新型コロナウイルス感染症に振り回される時間が続きました。当方プロジェクトでも日越往来を伴う活動が全く実施できず、専門家間の共同研究、各種セミナー、トレーニングも基本的にはオンラインで行うばかり。オンラインならではの効率の良さはあるものの、やはり細かい部分が伝わらないもどかしさもしばしば…。

そんな中、約2年ぶりに日越往来しての活動を再開できました！今回はベトナム人ラボ検査技師を日本に派遣し、HIVウイルス薬剤耐性検査で発生する各種の技術的な課題を、OJTで解決しようということになりました。まだ水際対策が続く日本の入国手続き、査証申請などはやや複雑でしたが、それをしっかりこなして無事5月18日に日本に入国できました。



実際の検査業務は、国立国際医療研究センターのラボで行い、ベトナムで採取したHIV感染者のサンプルを事前に日本に輸送して、日本人専門家と一緒に検査を行うことができました。2年以上往来が無かった中で、久々の対面、直接指導を伴うトレーニング、共同作業。「JICAの技術協力活動が帰ってきたなあ」と思える瞬間でもあります。初めて日本に行く彼女も最初は緊張した様子も、最後には「自分で一通りできます」と言えるようになるほど自信をつけて帰ってきてくれました。



最後には今後の研究活動に向けた成果発表。緊張の面持ちの中でも、しっかりしたプレゼンで今回の成果と今後の課題、研究テーマなどについて説明をしてくれました。こうした若い技術者が育つことは、今後のベトナムにとって、HIV/AIDS対策にも、また新型コロナのような新興感染症対策にも、非常に大事なことになります。既にハノイに戻った彼女の更なる活躍に期待しています！日本での新型コロナ感染

対策がまだまだ続く中、受入れに協力してくれた国立国際医療研究センターの皆様、どうもありがとうございます！